人文科学研究所　研究報告会

日　時：2026 年 11 月 28 日（土）13:00～15:20

会　場：オンライン（Zoom）開催　　※聴講自由

Zoom 参加を希望される方は、以下の URL または右記 QR コードより、
事前申込をお願いいたします。
https://forms.gle/XLLj59zR7ff9yo2g6
登録後、ミーティング参加に関するメールをお送りいたします。

◆報告 1　13:05～13:35
題　目：教師教育において総合的な探求の時間のカリキュラムマネジメントを学ぶ意味
　　―教科と特別活動を紡ぐ全体計画と年間指導計画の作成―
報告者：田尻敦子／波紋的共同体で紡ぐ学びと育ち研究班（代表：田尻敦子）
総合的な探究（学習）の時間の年間指導計画作成には、全教科の年間指導計画、特別活動の年間行事との連携、特別支援教育との交流及び共同学習、社会教育との連携、問いを探求する調査方法の習得等が必要となる。若手教員が地域と社会を紡ぐカリキュラムデザインを可能とする教師教育のあり方を探求する。

◆報告 2　13:40～14:10
題　目：書写姿勢と書体・書風―坐法と几案に着目して
報告者：亀澤孝幸／東アジア美学史研究班（代表：河内利治）
中国の魏晋時代は、王羲之を輩出したのみならず、古代書体から近代書体への転換期でもあった。この時代にこれほどの変革をもたらしたのは何か。本発表では、書写姿勢と書体・書風との連関について考える。とくに着目するのは、坐法および几案（つくえの類）の役割である。家具史および図像資料研究の知見を踏まえ、書法史に新たな光を当ててみたい。

◆報告 3　14:15～14:45
題　目：母語りの系譜学　江藤淳を巡って
報告者：千葉一幹／日本近現代文学の諸相－近現代文学の再検討研究班（代表：千葉一幹）
今日の日本において、母への思いを素朴に語ることは、今日反動的という批判を受けるだろう。しかし、かつて日本の作家たちは、ためらいもなく母への思いを語っていた。その代表的な作家に小林秀雄がいる。江藤淳は、母への思いを語る小林を真摯に受けとめつつ、そうした母語りを支える母性愛神話の失効を指摘した。
こうした矛盾した有り様がいかにして江藤淳において生まれたかを考察する。

◆報告 4　14:50～15:20
題　目：新出の伝寂蓮筆閑谷集切小考
報告者：徳植俊之／古典文学の享受に関する研究班（代表：徳植俊之）
未詳私家集として知られる『閑谷集』の新出断簡が三葉出現したので、その内容等について報告する。また、作者については牧四郎国親の子某とする説が提示されているが、それとは異なる可能性を示唆する資料を見出したので、作者についても再検討を加えたい。